

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2018年 8月 30日	
派遣プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> HUSA <input type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	チュービンゲン 大学 (国名: ドイツ)
所属学部・学科等名	経済学部
在籍身分	交換留学生
留学期間	2017年 10月 3日～ 2018年 8月 5日

1. 留学するまで	
留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	<ul style="list-style-type: none"> —長い歴史(ヨーロッパの最古大学の1つ) —大学の世界ランキング —大学位置(国境の近く)
留学準備を始めた時期(応募する何か月前ですか?)	語学の準備は約一年前から。その他の手続きについては2-3ヶ月前から。
事前準備について(どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	大学のカリキュラムで、英語で受講できる科目の種類やレベル(学部何年生レベルなのか等)を調べておいた方が良い。

2. 渡航について	
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ
	ビザ申請先: 市役所
	提出書類: 寮の契約書、パスポート、大学の入学許可証
	手続きに要した日数: 約3ヶ月
その他必要な事前手続き	ビザなしで入国する際、帰りの航空便がない場合、航空会社で搭乗を断られる可能性が高い。
出国年月日	2017年 10月 3日
経路(往路)	仁川国際空港→ハノイ国際空港(経由)→フランクフルト国際空港→ICE(ドイツ高速鉄道)→チュービンゲン
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input type="checkbox"/> 有(期間: 内容:) <input checked="" type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2018年 8月 5日
経路(復路)	チュービンゲン→ICE→フランクフルト国際空港→上海浦東国際空港(経由)→広島国際空港

3. 留学費用について

支出額	総額	約850,000 円	
	内訳	渡航費（往復）	170,000円 円
		ビザ申請手数料	100ユーロ 13,000円
		予防接種費用	0 0円
		保険料	月90ユーロ 月12,000円
		教材費（授業料以外の学費）	約100ユーロ 年13,000円
		宿舍費（住居費）	271ユーロ 月35,000円
		光熱費	なし 0円
		食費	200ユーロ 月26,000円
		通信費（インターネット・携帯）	月25ユーロ 月3,500円
		交通費（宿舍－大学間）	年180ユーロ 年2,4000円
		交際費	円
		その他（ 費）	円
（ 費）	円		
（ 費）	円		

4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	英語でのプログラムの場合、殆どが院生向けであり、学部生向けの授業の場合も3・4年生レベルの授業なので、派遣先の学部を選ぶときに、自分の専攻を選んだ方が、入学後単位取得において有利になる。他の専攻の選びたい場合には、入学前にその専攻の3・4年生レベルの知識を留学前に予習しておかないと、ついていけなくなる可能性が高い。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	経済学部の場合、レポートは点数には含まれなくても、受験を受ける際の資格要件になるので提出は必須である。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生との関係性など）	講義型とゼミ型の授業があり、前者の場合、学期末に発表があったりするが、殆どは日本と同じである。後者の場合、学生同士でのディスカッションが多い。殆どの講義が講義に加え、ゼミへの参加を義務付けしているため、人と話すのが苦手な人でも、ゼミでの発言をしないと良い点が取りにくい。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居の広さ	不明	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有（ 人） <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居費	1ヶ月当たり 271ユーロ	(現地通貨)	約 35000 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	寮はWHO、WANNE、旧市街地、南町などにあるが、WHOの方がもっとも規模が大きく、大学行きのバスの便数が多いためお勧めする。		

(2) 医療について	
保険の加入先	<input type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他 ()
保険の補償内容	不明
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 (種類: 回数: 医療機関名:) <input checked="" type="checkbox"/> 無
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	不明
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	室内の暖房はラジエーターという暖房器具を使うため、非常に空気が乾燥するため、保湿の方に気をつけた方がよい。
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
特になし。	
(4) 食生活についてのアドバイス	
アジアショップが充実しているため、もし現地の食べ物が口に合わなくても特に困ることはない。 アジアショップの値段は当然日本より高目のため、コスト削減をしたい場合には、ネットでの購入を勧める。	
(5) 気候・服装についてのアドバイス	
春; 4、5月; 日本と同じ 夏; 6,7,8月: 20-30度位で、湿度も低いため、日本より涼しく感じる 秋; 9,10、11月: 日本と同じ 冬; 12,1,2,3月: 氷点下の日も多く、日本より寒く乾燥する。毎日曇りのため、季節性憂鬱病の恐れあり。	
(6) 学内外の施設・設備環境について (インターネット環境含む)	
インターネットは寮についており、校内のどこでもWiFiが使える。ドイツの場合、まとまったキャンパスはなく、町の各地に学部の建物があるので、最初は迷いやすい。	
(7) 現地学生や地域との交流について (どのような、機会・きっかけがありましたか?)	
タンDEM (言語パートナー)、歓迎会、授業などで現地学生との交流ができる。	
(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
キッチンなど共用のため、各僚の階ごとに掃除当番制度などの学生同士で決めたルールがあるので、そのルールを守りながら生活すること。	
(9) 日本から持っていきべきもの	

パソコン用LANケーブル、ワイファイのルーター（現地で買ってよいが、入学シーズンには電気屋で売れ切れたりする）、（マックブックの場合）マックブック用のCDプレーヤー（現地のは日本のマックブックと互換性がなく、使えない可能性あり）

(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

寮はWHOを選ぶことをお勧めする（交換留学生の殆どはWHOにすむことになる）

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2019年3月（当初の卒業予定年月	2018年3月）
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他（具体的に <input type="checkbox"/>	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在就活中。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	卒業要件の単位を取得後留学。	

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細（出版社、URL等）	コメント

8. 後輩へのメッセージ

私は2017年10月から2018年の8月まで約2学期間チュービンゲン大学の経済学部で交換留学生として留学しました。

—勉強

1. 私のもとの専攻は法学部なので、違う専攻を選び、留学したケースになりますが、チュービンゲン大学の英語で受講できる専攻科目は大学院生向けが多く、学部生向けの場合にも3,4年生レベルを想定した上での講義が殆どです。この点を考慮したうえで留学先での専攻を選ぶといいでしょう。
2. 経済学部の場合、試験を申し込まないと受験できないので、要注意です。
3. 経済学部の場合、試験期間が2週間ほど遅いです。
4. 大学には語学センター（Wilhelmstrasse 22）があり、そこでドイツ語を含め、諸外国語の勉強ができます。殆どのコースがコピー代以外の費用はかからないのでお勧めです。
5. 英語コースはセンターの一回でレベルテストを受けた上で参加できます。

—住まい

1. チュービンゲンでの住まいは100%寮になります。
2. 一番大きい寮はWHOです。バスの便が多く、学生の殆どがここに住んでおり、有料オリエンテーションやパーティなどもここで頻繁に行われます。
—WHO以外の寮はWanne,旧市街地の寮、南町の寮、Frankreich Viertelなどがあります。
WanneはWHOの近くですが、学校行きのバスが1つしかありません。（私はここに住んでいました）

—旧市街地の寮、旧市街地はチュービンゲンの市内にあたります。景観がとても美しくコイン洗濯機の利用がただです。学校にも徒歩で行けます（他の寮は 1.5 ユーロ）

—Frankreich Viertel の寮、バスから学校まで 20 分ほど WHO の反対側にある寮です（WHO まではバスで 40 分）、チュービンゲンで一番大きいマートと商店街が近いです。

—南町の寮、この地域を出入りするバスは週末には運休なので、週末には自転車か歩きで移動するしかありません。

—Wanne と WHO はいずれも山頂にあるため、自転車や徒歩での通学には向いていないと思います。

—各種制度

メンター制度；メンターは交換留学生をサポートする現地の学生です。申請のメールが届いたら、申し込むと良いでしょう。

タンデム制度；タンデムとは言語パートナーのことで、互いの母国語を教えあい、言語力の向上が期待できます。

申込みは→言語センターより

—日本関連

—チュービンゲン大学には日本学専攻があります。

—現地在学の日本人コミュニティもあります（懇親会）

—その他

—チュービンゲン大学のあるバーデン・ヴィテンベルク州はドイツ内でも一番目か二番目に豊かな州でありながらも、最も保守的な地域でもあります。特に地域性とアイデンティティの強い地域ということを知っておいた方が良いでしょう。また、Schwaebisch という方言を話す地域なのでこの点も参考にしてください。

9. 自由記述 (1,200 字程度)

私は2017年10月から2018年の8月まで約1年間ドイツの南部にあるチュービンゲンのチュービンゲン大学で留学しました。最初は1年は長いと思いましたが、今思えばあっという間に過ぎてしまった気がします。

留学中、もっとも実感できた言葉は「多様性」です。ドイツは連邦制国家で、各州は一国同様の権利をもっており、地域によって文化、方言、食生活などが非常に異なります。また、戦後から受け入れつづけてきた移民により、多文化多民族社会になっています。留学する前までは、国によって特定の偏見や先入観を持っていました。たとえば、ドイツ人と言えば「時間に厳しい」、「ルールを徹底的に守る」などのイメージを持っており、日本同様ドイツの列車などの交通手段は定刻に来ると信じ込んでいましたが、実際現地では日本のJRに該当するDBは遅延で悪名が高かったため、偏見や先入観がいかに現実離れしているものかを実感できました。その中で多様性というのは国だけではなく、人にも当てはまるということも多々の経験から学び、人と付き合っていく上で外見や偏見などに偏らずに個々人の個性を尊重できるようになったと思います。

また、この世に「絶対」はないと思いました。帰国の一週間まえに、帰りはフランクフルト発の飛行機だったので、チュービンゲンからフランクフルトまでの列車のチケットを買っておきました。帰国の前日、絶対に大丈夫と思っていましたが、念のためにもう一度列車の時間や乗り場などの変更事項の確認のためアプリを開きましたが、そこには赤い感嘆符が表示されていたので、確認しました。緊急お知らせがあったのですが、その内容はこうでした。「チュービンゲン駅の近所のロイトリンゲン駅より、第二次世界大戦時の不発弾が発見され、当日の午後よりしばらくの間当地区の列車を運休いたします」。お知らせを読んだ直後、バスなどを調べましたが、チュービンゲンで開かれるマラソン大会により、チュービンゲンに停まるバスがないことに気づき、速やかに最寄りの高速列車駅まで行けるローカルバス便を調べ、チケット変更を行い、出発当日何の問題もなく、日本に戻ることができました。私は少し心配症なところがあって、「荷物も多いし、明日大丈夫かな」と心配していたら、現地の友達から「空から爆弾でも落ちない限り絶対大丈夫」といわれていたため、尚更、この世の「絶対に大丈夫」と言う油断は禁物だと思い知りました。海外では、こっちでの常識が向こうでの非常識だったり、普段はありえないことがありえることに気づきました。この日の教訓は肝に銘じておきたいと思います。

将来は留学で身に着けた言語力、柔軟性、生活力をもとにこの能力が発揮できる仕事に就き、更に成長して行く人になりたいと思います。

注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。